



記者発表資料



平成26年10月8日
横浜市港湾局企画調整課
一般社団法人横浜みなとみらい21

■みなとみらい21地区で「きれいな海づくり」■ 汽車道護岸沿いの水域に、アマモの植付け実施します！！

■趣旨

一般社団法人横浜みなとみらい21と横浜市港湾局は、内港地区の賑わい創出、水辺空間の活性化を図るため、水質改善・生物多様性に向けた取組みを進めています。

本年3月には、汽車道護岸沿いの5m×7mの水域に、厚さ30cm程の覆砂を行い、水辺の生物の生息環境を確保するための場づくりを行いました。

今回は、この場所の生物の生息環境をさらに改善するため、日陰を作り、光合成により酸素が供給されて、稚魚や稚貝が集まるなどの効果が期待できるアマモの植付けを行います。また、同時に水質調査も行います。

■実施場所

みなとみらい21地区汽車道護岸沿い水域

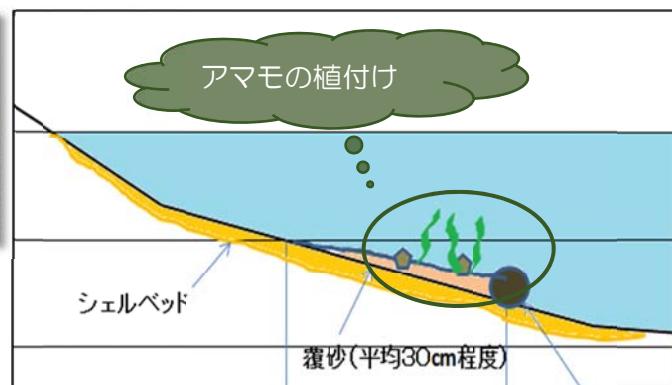


■日時

平成26年10月9日（木）
10:30～12:00（雨天決行）

■実施内容

アマモの植付け
水質調査



*今回のアマモの種子については、三菱電機株式会社より提供を受けました。

■実施主体（参加者）

主催：一般社団法人横浜みなとみらい21

横浜市港湾局

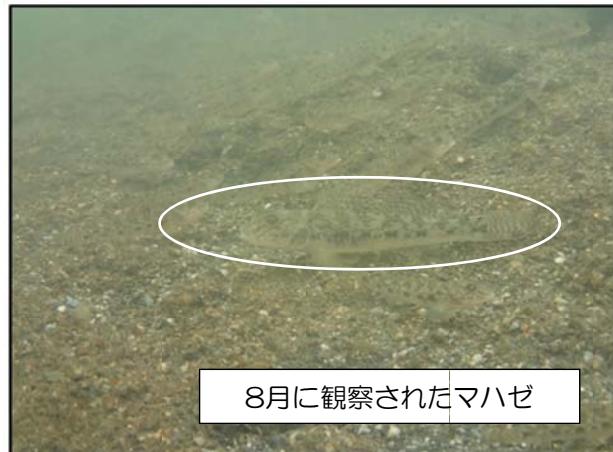
協力：NPO法人海辺つくり研究会

参加：一般社団法人横浜みなとみらい21の環境部門民間企業のメンバーほか

裏面あり

■これまでの経過

	実施内容	調査結果
3月19日	覆砂 水質調査	生物確認種類 14種類
8月12日	水質調査	生物確認種類 28種類*1 溶存酸素量*2 低下なし 周辺海底にマハゼ確認
10月9日	アマモの植付け	



*1 生物確認種類：アリ属、アサ属、タジマイギソツヤ、ムササビ、アリ、カキ、イカ、クロダイ、マセ、ほか

*2 溶存酸素量（DO）：

水中に溶存する酸素量のことであり、水質の指標として用いられます。

一般的に夏季は、海底に存在する窪みや、閉鎖的な内湾では、海面と海底の水温差により、水流が滞り、プランクトンの死骸が堆積した海底部でのDOが低くなる貧酸素状態が生じますが、覆砂したことにより、改善が図れたと考えられます。

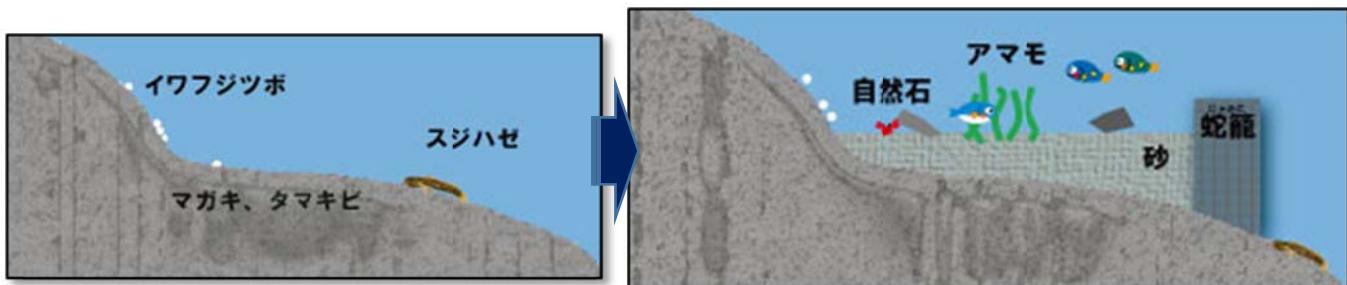
■今後の予定

本取組については平成28年3月まで継続して生物生息状況及び水質について観測し、今回植付けを行ったアマモの効果についても検証していきます。

<参考>

アマモの効果について

アマモを植付けることで、栄養塩を吸収し、酸素を供給して、水質浄化に役立つほか、稚魚や稚貝が集まります。



お問い合わせ先

横浜市港湾局企画調整課 事業推進担当課長 一般社団法人横浜みなとみらい21 企画調整部企画調整課長	林 総 浜谷英一	電話 045-671-2885 電話 045-682-4404
--	-------------	------------------------------------